

自社構築か、ソリューションの活用か - AIプロジェクトを 軌道に乗せる方法

HPE Private Cloud AIがAIの目標達成に役立つソリューションを提供します。

生成AIにより、機械ができることや、21世紀のビジネスオペレーションに対して人々の認識が変化していることには疑いの余地がありません。しかし、企業は今、AIをどのように導入するのが最もよいかという難問に直面しています。企業は独自のAI手法を開発すべきでしょうか、それとも、他者が構築したソリューションをカスタマイズすべきでしょうか。また、こうしたワークフローに最適なクラウド環境とはどのようなものでしょうか。

現在では半数の企業が、導入したAIの一部または全部をパブリッククラウドで実行しています¹。その主な要因は、スピードにあります。AIの概念実証 (POC) を迅速に開始したい場合や、有望なユースケースを特定するために一連の小規模な実験を行う必要がある場合は、パブリックインフラストラクチャを使用する方が、自社構築よりも迅速に行えるうえに、初期投資も少なくて済みます。

一方、組織全体にAIを展開するという場合は、パブリッククラウドのメリットがすぐに失われてしまいます。初期費用は比較的小ないかもしれません、パブリックインフラストラクチャだけを利用していると、長期的に見てコストが高くなる可能性があります。実際に、3年間の総所有コストは、プライベートクラウドAIを使用している組織の方が最大60%も低くなる場合があります²。

「パブリッククラウドでテストした方が合理的なケースもあります」と、HPEのAIおよびプライベートクラウド担当シニアワールドワイドマネージャーであるMichael Corradoは話します。「しかし、本番環境に移行すると、拡張してもコストが急激に増加しない、信頼性の高いプラットフォームが必要になります」

独自のインフラストラクチャを管理していれば、ニーズが増大したときに運用コストが膨れ上がるのを防ぐことができます。また、こうしたシステムへのアクセス性を高めることで、パフォーマンスを微調整し、特定のユースケースに合わせて最適化することが容易になります。

最も重要なメリットは、プライベートクラウドで運用すると、企業独自のデータを自宅の近くで保持できることかもしれません。パブリッククラウドとは異なり、インフラストラクチャを他者と共有することもありません。データのセキュリティは、想定されたものではなく保証されたものになるため、データ主権に関する規制上の問題を回避しつつ、より大きな安心感を得ることができます。

自社構築か、ターンキーか

ほとんどのAIのユースケースでは、プライベートクラウドの方がコスト、データ、パフォーマンスをより細かく制御できます。しかしそれでも、独自のAI環境をゼロから構築すべきか、ターンキーソリューションを購入してニーズに合わせてカスタマイズすべきか、という問題が残ります。

この数十年間、IT部門は構築と購入のどちらがよいかという問題に悩まされてきましたが、GenAIの導入についても例外ではありません。すでにAIインフラストラクチャが稼働していて、社内に専門知識が蓄積されており、特定のツールを利用しているか独自のユースケースを継続的に行っている場合は、既存のインフラストラクチャ上に構築することが極めて合理的です。

しかし、これまでのところ、ほとんどの企業ではAIの導入が進んでいません。実際に、AIの実験とPOCの約90%は本番環境に移行できずに終わっています³。

その原因はいくつか考えられる、とCorradoは指摘します。実験を行っているITチームが、すさまじいペースで進化するAIのインベーションに対応できなくなっていた可能性があります。そのユースケースでは十分なビジネス価値が証明されなかった可能性もあります。あるいは、POCを組織全体の本番環境に展開するうえで必要なデータが不足していたかもしれません。

しかし、おそらく最大の理由は、組織内に、AIプロジェクトを実現するためのリソースも専門知識もなかったことです。

「多くの企業が概念実証の段階で行き詰まっています」と、Corradoは話します。「何百件というAIプロジェクトが進行中かもしれません、さまざまな理由で本格展開に至りません。期待されるプロジェクトが軌道に乗ったことはなく、確かなメリットをもたらす可能性のあるプロジェクトの見極めがまったくできていません」

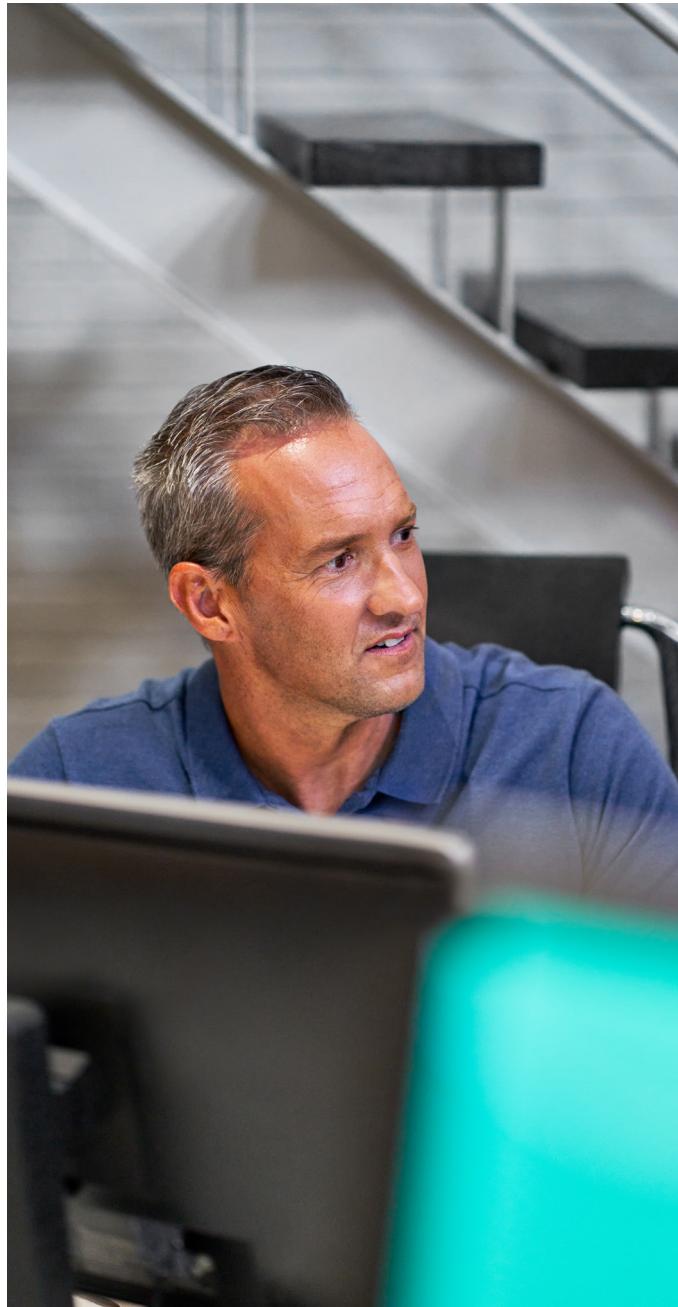
プライベートクラウドソリューションのもう1つのメリットは、ターンキーAIシステムではエンジニアリング、運用、ライセンスのコストが削減されるため、自社構築の場合に比べて総所有コストが最大50%も低くなることです⁴。

¹ “2025 State of the Cloud Report,” Flexera, March 19, 2025.

² “The Economic Benefits of HPE Private Cloud AI With NVIDIA AI Computing by HPE,” Enterprise Strategy Group, March 2025.

³ “88% of AI pilots fail to reach production — but that's not all on IT,” CIO.com, March 25, 2025.

⁴ “The Economic Benefits of HPE Private Cloud AI With NVIDIA AI Computing by HPE,” Enterprise Strategy Group, March 2025.



ターンキーAI: データを加えてかき混ぜるだけ

ほとんどの企業では、事前構築済みのソリューションを購入して微調整することで、膨大な時間を節約できるだけでなく、複雑さも軽減できます。そのため、HPEとNVIDIAが連携して、企業がAIプロジェクトを軌道に乗せるまでの時間を短縮する統合型ハードウェアおよびソフトウェアソリューションを提供しています。

「立ち上げに必要なテクノロジーと専門知識を提供するこうしたソリューションを利用することで、迅速に、そしてコスト効率よく運用を開始することができます」と、Corradoは指摘します。

HPE Private Cloud AIは、企業がAIの目標を達成できるように設計されたターンキーソリューションです。独自ツールとオープンソースツールで構成された広範なエコシステムにより、インフラストラクチャの構成と管理が簡素化されるため、ITチームは企業データのプライバシーとセキュリティを維持しながらAIワーカロードを迅速に展開してプロジェクトを拡張できます。

HPE ProLiantサーバー上に構築された事前構築済みソリューションは、推論のみが必要な場合や、推論、検索拡張生成、ファインチューニングを行いたい場合など、ニーズに応じてさまざまなサイズの構成でご利用いただけます。

HPE AI EssentialsソフトウェアがAIの開発と展開をサポートする包括的なスイートを提供し、NVIDIA® AI Enterpriseソフトウェアが主要なAIのユースケースに対応するAIモデルおよびフレームワークを提供します。この厳選されたセルフサービスツールを組み合わせて使用することで、開発者は従来の方法に比べてAIアプリケーションの構築時間を最大90%短縮できます⁵。1回クリックするだけで、組織にGenAIチャットボットなどのテクノロジーを導入できます。

導入後に問題が発生すれば、トップレベルのアドバイザリーサービスを利用して解決できる、とCorradoは付け加えます。また、HPEとNVIDIAは両社ともに常時最新のテクノロジーをお客様に提供しているため、テクノロジーがすぐに陳腐化することや、迅速に拡張できないことを心配する必要がありません。

「HPEとNVIDIAがテストと検証を済ませているため、これらのソリューションが役に立つことは間違いないありません」と、Corradoは話します。「また、常にハードウェアとソフトウェアの両方が更新されるので、後れを取る心配もありません。インフラストラクチャを追加するだけで、最新のものが手に入ります」

⁵ “HPE Private Cloud AI with NVIDIA AI Computing by HPE: Essential to Accelerating GenAI Industrial Transformation,” The Futurum Group, January 2025.

残された時間はわずか

企業がAIによるインサイトとイノベーションをいち早く活用しようと競うなかで、市場投入までの時間は大きな差別化要因となります。企業にはもはや、テクノロジーが落ち着くまで待ったり、面倒なデータのクリーニングを行ったり、どのユースケースを試すかゆっくり考えたりする余裕はない、とCorradoは話します。

始めるには、今が絶好のタイミングです。

「まずは小規模から始めて、すぐに取り組みを強化し、進めながら微調整していくことをお勧めします」と、Corradoは話します。「新しいカスタマーサービスボットを導入したり、販売プロセスを効率化したりすることで、すぐに確かなメリットが得られます。ただ、始めてみなければそのメリットはわかりません」

[HPE.comにアクセス](#)

詳細はこち

[HPE.com/ai](#)



[今すぐチャット](#)

© Copyright 2025 Hewlett Packard Enterprise Development LP. 本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。ヒューレット・パッカード エンタープライズ製品およびサービスに対する保証については、すべて当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。

NVIDIAおよびNVIDIAロゴは、米国およびその他の国におけるNVIDIA Corporationの商標および/または登録商標です。他の第三者の商標は、それぞれの所有者に帰属します。

a50013432JPN

HEWLETT PACKARD ENTERPRISE

[hpe.com](#)